

# 救援物資と支援募金へのご協力 ありがとうございました

石巻へ

第6次  
まで

救援募金総額 **218万円**  
支援物資提供 **180人**

- 第1次 5月31日～6月 3日
- 2次 7月21日～7月24日
- 3次 8月25日～8月28日
- 4次 9月23日～9月26日
- 5次 10月27日～10月30日
- 6次 12月 8日～12月11日

のべ  
5  
0  
人

今年の5月から東日本大震災の被災地・石巻を中心とした宮城県東部地域への救援ボランティア活動を行ってきました。多くの方から沢山の物資と募金が寄せられました。支援物資はすべて現地にお届けしました。募金は野菜や米、炊き出しの材料や業務用ガス炊飯器の購入、物資輸送のレンタカーや宅配便などで活用しています。年内のボランティアを終了し、来年も活動を続けます。この間のご協力に心から感謝するとともに、引き続きご支援を呼びかけます。

仮設住宅でのお届け。港から持ち込んだ布団が飛ぶようにはけました。 12月9日



南三陸町のガレキです。道路が整理されただけで、復興のメドもたちません。 12月11日

この他にボランティア受け入れ要員で26日間、代表を派遣

港地区委員会 TEL 3455-0051  
FAX 3455-0054  
メール jcp\_minato@ybb.ne.jp

港区議団 TEL 3578-2945  
FAX 3578-2947  
メール mail@jcp-minatokugidan.gr.jp

みなと民報

2011年12月号外 日本共産党港地区委員会は東日本大震災へのボランティア活動の報告を発表しました。発行 みなと民報社/海岸2-4-12/責任者/栗橋伸次郎

■お問い合わせ  
日本共産党港地区委員会  
3455-0051

# 日本共産党 第6次ボランティア 活動報告 石巻 12月8日～11日

日本共産党港地区委員会は、12月8日から11日まで石巻市の「日本共産党 震災・救援センター」を拠点に、7名が第6次ボランティア活動を行いました。



今回、冬物物資の提供を広く呼びかけた結果、大量の物資が寄せられました。3トントラックをレンタルして

です。「カレーライスを食べたのは4ヶ月ぶり」「家族4人で今晩食べるので、ナベを持ってきていいですか」「何回も来てくれて本当に助かります」との声が次々とかけられます。手作りの看板（左上写真）も評判でした。

## 今ごろ、風除工事？

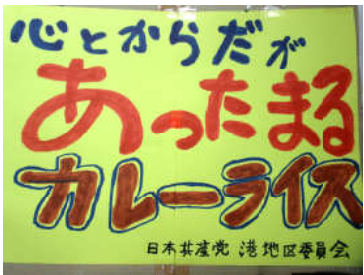
全部持ち込みました。初日は向陽地域の仮設住宅での活動です。一面の写真のように、港から持ち込んだ布団や毛布、セーター、コート等々が飛びようにはけました。

## カレーライス炊き出し「4ヶ月ぶりに食べます」

今回のメインは、カレーライスです。寒い中でも温かい食事で、心とからだをあたたためてもらうと計画しました。

250食のカレーづくりです。お米を30kg炊く作業も一苦労です。5升炊きのガス釜を2セット購入し4釜炊きました。この釜は、救援センターに貸与し、今後の炊き出しに活用していただきます。

カレーライスができあがり、仮設にお住まいの方や工事現場の方にも食べていただき、完食



玄関を開けたとき風や雪を防ぐための風除工事がようやく行われていきます。遅すぎるし、最初から設置するべきでした。夏に約束していた網戸は来年に回されたそうです。

## 復興のメドつかず 南三陸も女川も

3日目は、独自の視察です。南三陸から雄勝、女川と回りまわした。すでに被災から9ヶ月もたつたの、ガレキは山積みそのままのように復興させるのか、何も進んでいません。国の責任は重大です。

桐ヶ崎という浜に立ち寄りました。漁師さんの話では、ホヤ



とホタテで生計をたてており、どちらも育つのに3年かかります。ホヤの種が流されたので、種付けが必要で、

海流が変わってしまい手探り状態だそうです。家も漁のための建物も全部流され、仮設で暮らしています。

仲間とともに再開の準備をしています。苦労の中にも希望をもっている感じでした。女川町立病院では、宮崎県からずっと支援に入っている方の話を聞きました。被災直後、トラックに物資を積み込んで女川に入ったそうです。ダイバーのプロで、海のガレキ撤去を担ったそうです。「国は何もしていない。ガレキ撤去は、町と私たちでやった」と政府への不満をぶちまけていました。

右の写真は、多くの児童が犠牲になった大川小学校です。月命日で法要が営まれていました。以前から要望のあった、パソコンを救援センターで渡しました。

